

1. 研究主題

好ましい人間関係を育む学級経営・道徳教育の組織的な取り組み
—アセスを活用した適切な児童理解と支援—

小豆島町立池田小学校 石井 久満

2. 研究の具体と今後の課題

好ましい人間関係を育むためには、適切な児童理解が必要である。それを学校全体で組織的に取り組むことで、多様で多角的な児童理解と具体的支援が行えると考える。本研究では、昨年度から、小学校におけるアセスを活用した児童理解と支援を学年団を基盤にして、総合単元的な道徳学習に取り組むことで対人的適応を高めることができた。本年度は、その実践を確かなものにするために、道徳教育推進チームをつくり各学期にテーマをもち、年間を通して、横断的な取り組みを意図的・組織的・協働的にして道徳教育の実践が充実するように取り組んでいる。また、児童理解を基盤とした学級経営や生徒指導、道徳教育を重ねて考えていくことで教職員の児童に対する理解がより適切で効果的な支援となりつつある。組織的・協働的な取り組みを行うために、共通理解の時間の確保と内容の改善などの業務改善は重要な課題である。

1. 研究主題

「聴き方」指導のPDCAサイクルと児童の聴く力の変容

三豊市立上高瀬小学校 宮本 陽子

2. 研究の具体と今後の課題

本研究の目的は、生涯にわたって必要なコミュニケーション能力の一つである、聴く力をもった児童を育成することである。「聴く力」を、相手が話しやすい聴き方【態度】、相手の思いを聴き入れたり、聴き出したりする聴き方【共感】とする校内研究テーマのもと、年間3循環の「聴き方」指導のPDCAサイクルを実践中である。聴く力の変容を、①「きくきく気持ちアンケート」の児童の自己評価と教師評価(ともに5月と11月)、②上小「聴き方カード」の評価と児童の振り返り(11月)から分析した。3学期も全校統一の指導と学級の実態に応じた指導の両面から継続する計画である。

P(計画) 校内研究テーマの決定と実践計画
D(実行) 1学期学習目標「聴いて話す」の実践
C(評価) ①5月、児童に「きくきく気持ちアンケート」実施
A(改善) 聴き方アップのための授業実践
学校要請訪問 10月11日
P(計画) 「表面的な聴く」から「内面的な聴く」へ
D(実行) 上小「聴き方カード」での授業実践
C(評価) 教師による上小「聴き方カード」の成果と課題
A(改善) 上小「聴き方カード」の改善
D(実行) 上小「聴き方カード(改)」での授業実践
C(評価) ①11月、児童に「きくきく気持ちアンケート」、
②上記に対する教師評価と「聴き方カード」の評価
A(改善) 3学期に向けて

【香川大学教職大学院の2つの特色】 ※共通科目として全員が学びます。

- ☆ 生徒指導と道徳教育に関する指導力育成
- ☆ 特別な教育的支援を必要とする通常学級在籍児童生徒に対する指導力育成

【3つのコース】

- ・学校力開発コース…学級経営・学年団経営や学校経営等、組織の中核的役割を担う教員の養成
- ・授業力開発コース…道徳教育や授業力向上等の学校課題解決に向けた中核教員の養成
- ・特別支援教育コーディネーターコース…特別支援教育に関わる校内体制構築の要となる教員養成

【短期履修学生制度(1年間で修了)】

教職経験5年以上で県教育委員会からの推薦があり、審査によって認められた方は、所定のプログラムを実践することで、1年間の履修で修了することができます。経済的負担の軽減、学校現場を離れる期間の短縮など、現職の先生方が学びやすい環境を整えています。

修了後も、大学教員が学校を訪問し、学校課題の解決のために「学び続ける教員」の実践や校内研修等をサポートします。そして、修了後の学校での実践成果を、本日の学校発表または香川大学教職大学院ブースでの「フォローアップ・プログラム発表」として発表いたします。



「LGBT等に関する教職員研修会」を終えて

1 研修会の目的

平成27年4月に文部科学省から「性同一性障害に係る児童生徒に対するきめ細かな対応の実施等について」の通知が出された。また、平成28年4月には「性同一性障害や性的指向・性自認に係る、児童生徒に対するきめ細かな対応等の実施について」の教職員向けのパンフレットが各学校に配布された。

性同一性障害や性的指向を理由として、制服、トイレ、着替え等で生きにくさを抱えているLGBT等の子どもたちがクラスに1、2名はいると言われている。そのような児童生徒への対応や教職員の理解と認識を深めるため研修会を実施した。

2 研修会の日時・場所

【1日目】11月14日(火) 13:30~16:30 レクザムホール 小ホール
【2日目】11月21日(火)または28日(火) 13:30~16:30 香川県社会福祉総合センター

3 研修会の内容

学校現場における問題点等を踏まえ、いまどのようなことで当事者が困っているのか、具体的に学校や教職員にどのような対応が求められているのかなど、当事者や医師の講演等を聴くことをとおして、人権感覚のある教職員の育成を図ることができる内容を計画実施した。

【1日目】講演Ⅰ:「性別で見る多様性と人権 ~見えない/見せないしんどさを抱える子どもに向き合う~」
飯田亮瑠(ダイバーノン代表)

講演Ⅱ:「LGBTの基礎知識と子どもへの対応」
中塚幹也(岡山大学大学院教授)

【2日目】講演:「家族と共に性同一性障害を生きる」
高野 晶(PROUD)、高野さんのご家族
当事者の方を交えてのグループ研修

4 参加対象と人数

管理職、人権・同和教育主任、養護教諭、その他研修が必要であると考えられる教職員等
14日は260名、21日は100名、28日は104名の教職員が参加して開催された。

具体的研修内容や参加者の方のアンケート結果を紹介しながらセクシュアルマイノリティ(性的少数者)について考えるきっかけにいただければと考え、報告いたします。

セクシュアルマイノリティ(性的少数者)

L esbian レズビアン:女性同性愛者

gay ゲイ:男性同性愛者

B isexual バイセクシュアル:両性愛者

T rans gender トランスジェンダー

:心の性別と体の性別が違うと感じる
生まれもった性別に違和感を感じる人

性に関する3つの要素

体の性別 生殖器の有無、染色体などで判別できる
生物学的な性別=戸籍の性別

心の性別 自分の自覚による性別
(自分が男と思っているか
女と思っているか)

性的指向 恋愛対象がどちらの性に向かっているか